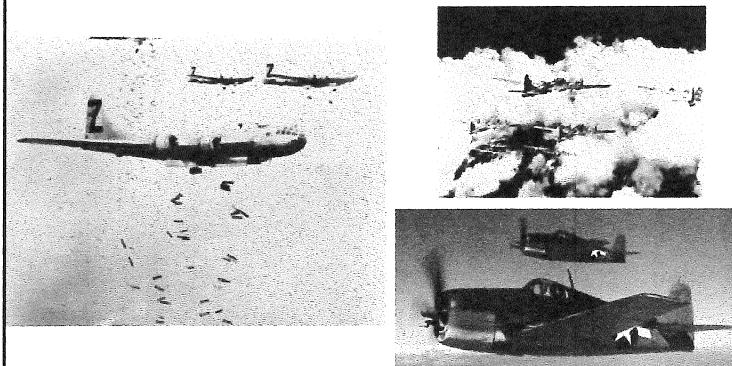
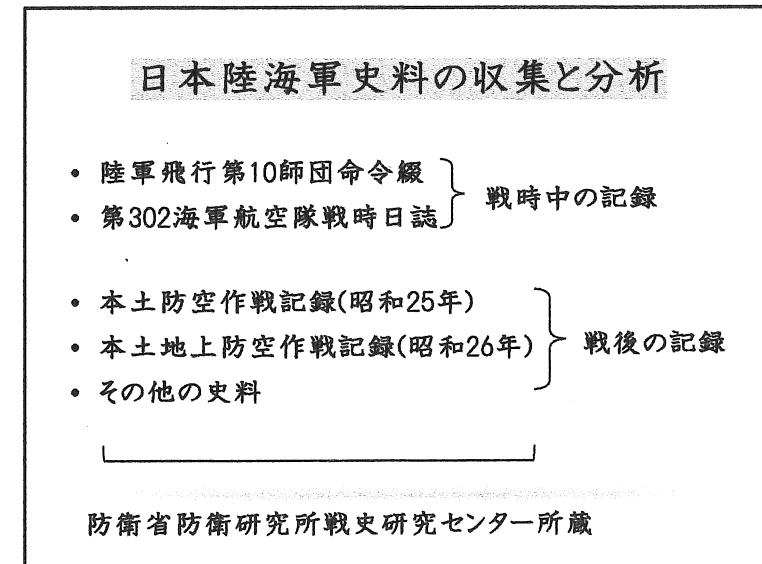
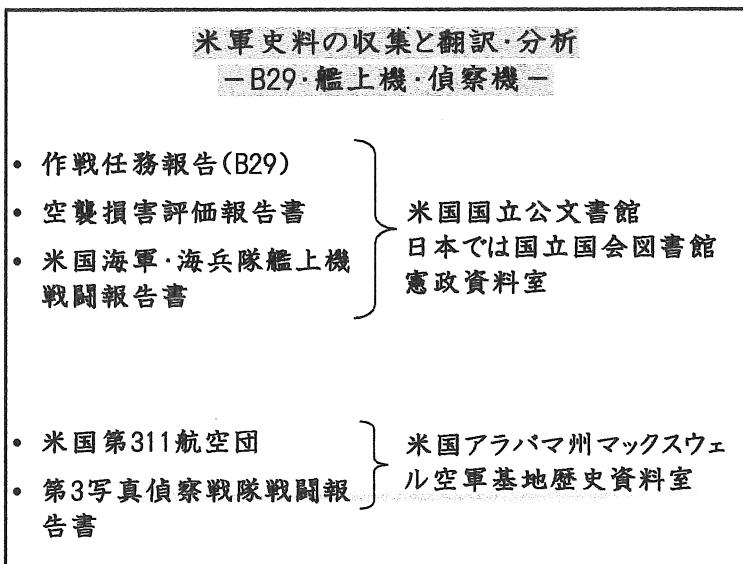




これまでの空襲記述



これまでの全国(県内も)における空襲記述(自治体史など)は、大本営と軍管区司令部発表や新聞記事などを使用するなど根拠不明の数字をもとにしている場合が多く、事実からかけ離れたもののが多かった。



日本本土に対する米軍(B29)の空襲

- マリアナ基地からのB29による日本本土空襲は、3段階に区分される。
- 第1段階－昭和19年11月24日～航空機工場を目標とする高々度昼間精密爆撃
- 第2段階－昭和20年3月10日～大都市に対する夜間大量焼夷弾爆撃
- 第3段階－昭和20年6月17日～地方中小都市に対する夜間焼夷弾爆撃

空襲目標に選ばれた180の都市

- 1. 東京
- 2. 大阪
- 3. 名古屋
- .
- .
- .
- .
- .
- .
- .
- .
- .
- .
- .
- 67. 高崎
- 126. 伊勢崎
- 57. 前橋
- 180. 熱海

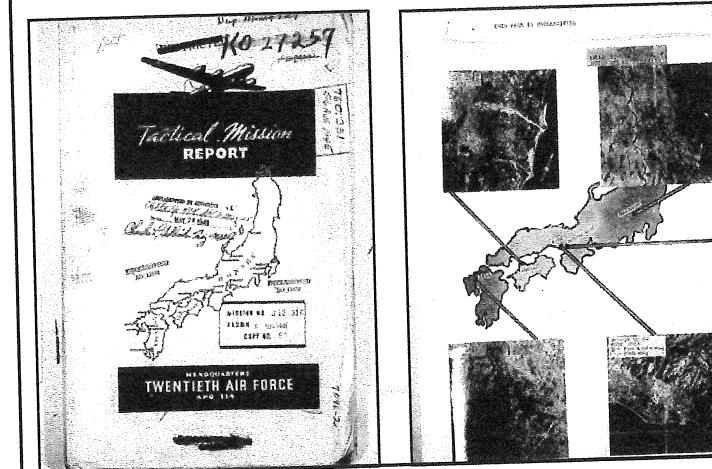
アメリカ軍の作成した無差別爆撃の目標計画順位表(180都市)

順位	都市名	機種	回数	空襲回数									
1.	東京	B-29	42	33	B-29	40	33	B-29	39	33	B-29	38	33
2.	大阪	B-29	32	28	B-29	31	28	B-29	30	28	B-29	29	28
3.	名古屋	B-29	23	22	B-29	22	22	B-29	21	22	B-29	20	22
4.	高崎	B-29	21	20	B-29	20	20	B-29	19	20	B-29	19	20
5.	福島	B-29	18	17	B-29	18	17	B-29	17	17	B-29	17	17
6.	群馬	B-29	16	15	B-29	16	15	B-29	15	15	B-29	15	15
7.	栃木	B-29	15	14	B-29	15	14	B-29	14	14	B-29	14	14
8.	岐阜	B-29	13	12	B-29	13	12	B-29	12	12	B-29	12	12
9.	長野	B-29	12	11	B-29	12	11	B-29	11	11	B-29	11	11
10.	愛知	B-29	11	10	B-29	11	10	B-29	10	10	B-29	10	10
11.	神奈川	B-29	10	9	B-29	10	9	B-29	9	9	B-29	9	9
12.	茨城	B-29	9	8	B-29	9	8	B-29	8	8	B-29	8	8
13.	新潟	B-29	8	7	B-29	8	7	B-29	7	7	B-29	7	7
14.	福岡	B-29	7	6	B-29	7	6	B-29	6	6	B-29	6	6
15.	静岡	B-29	6	5	B-29	6	5	B-29	5	5	B-29	5	5
16.	佐賀	B-29	5	4	B-29	5	4	B-29	4	4	B-29	4	4
17.	鳥取	B-29	4	3	B-29	4	3	B-29	3	3	B-29	3	3
18.	海防	B-29	3	2	B-29	3	2	B-29	2	2	B-29	2	2
19.	千葉	B-29	2	1	B-29	2	1	B-29	1	1	B-29	1	1
20.	和歌山	B-29	1	0	B-29	1	0	B-29	0	0	B-29	0	0

(無差別爆撃 地図は複数枚あります)

B29作戦任務報告書

(第14回中小都市空襲－佐賀・前橋・西宮・御影・今治)



昭和20年4月7日撮影の偵察写真



1機のB29が午前10時10分頃本県の西毛地区に侵入県下を横切ってこの間投弾せず東毛方面から脱去した

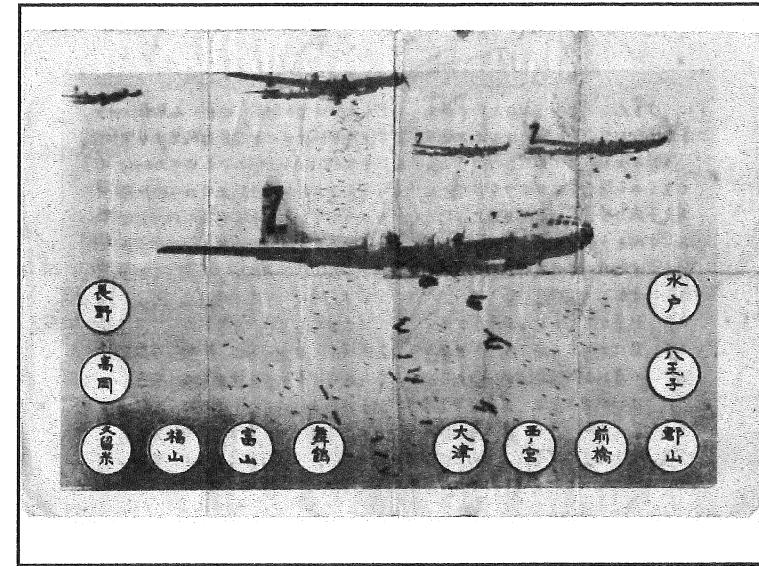
米軍は一般的に1都市に対して攻撃前の写真偵察と攻撃後の写真偵察を各1回実施。

攻撃前任務-5M356-7月25日
攻撃後任務-5M412-8月29日

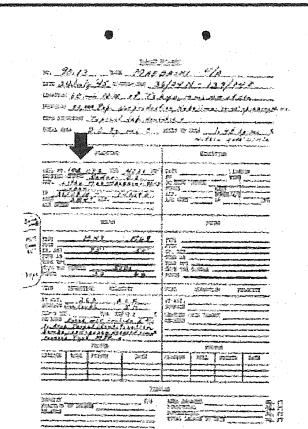
7月24日	米軍空襲警報による前橋空襲行動計画
7月25日	午後10時半頃空襲開始。午後11時20分到着
7月26日	午後1時半頃空襲終了。午後2時50分解除
7月27日	午後2時半頃空襲警報発令、午後3時空襲解除
7月28日	機銃掃射
7月29日	午後1時半頃空襲警報発令、午後2時半頃解除
8月1日	午後2時半頃空襲警報発令、午後2時50分解除

(参考表は誤り前橋市のみを記載)

伝單を詰めたM-26計8発が前橋に投下

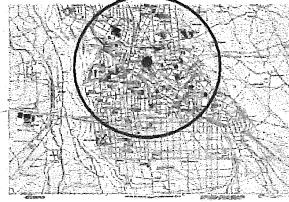
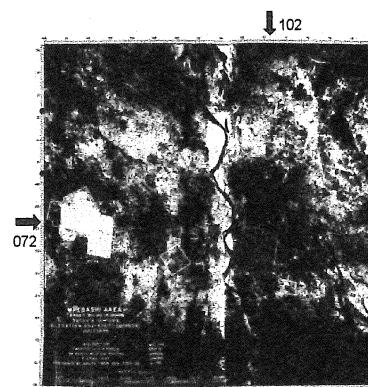


「空襲損害評価報告書」中の「目標概要」



- 前橋空襲実行の12日前、7月24日作成。
- 照準点(AIM.PT)102 072の記載。
- リト・モザイク横座標の目盛り102、縦座標の目盛り072を意味し、その交点が爆撃中心点となる。

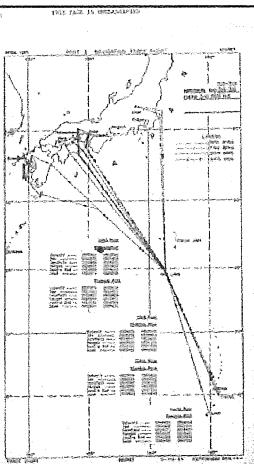
リト・モザイクと爆撃中心点



ここを中心に半径4000フィート(1200メートル)の円、これは当時の市街地の大部分を含む。

前橋空襲の爆撃中心点は現在の千代田町2丁目、前橋テルサと麻屋デパートの中間、当時の桑町。

B29の参加機数と航跡



・マリアナ基地テニアン北飛行場の第313航空団所属の3個群団。当日の手持ち機数143機。

・先導機12機、部隊主力90機、3機のレーダー対策機、1機の風程観測機、1機のスーパーダンボ機(救助機)の計107機、人員1,182名が参加。

・1番機の離陸 - 8月5日15時29分(日本時間)
・最後尾機の離陸
- 8月5日17時1分(日本時間)
全機の離陸に1時間32分を要した。

・部隊主力の陸地接近は21時17分～23時43分。

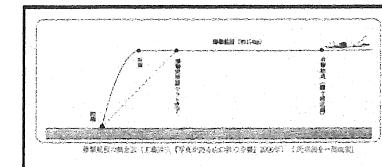
爆撃航程と爆撃方法

・爆撃方法 - 夜間、レーダー。

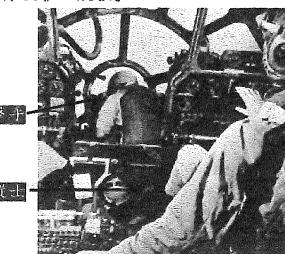
・攻撃始点は霞ヶ浦北端。

・当初は99機の出撃予定。

・目標円内確度50%の投弾で市街地を壊滅。



前橋上空まで114kmの地点、時間にして19分30秒の航程。



・先導機と部隊主力機の計102機のうち前橋上空に到達したのは92機であった。

・レーダーは投弾の精度に限界、そこで優秀な爆撃手12名を選抜、12機の先導機に乗り込ませて目標に先行投弾。後続機がその火災を目印に投弾する方法を採用。しかし目標をはずれて市北西部に第1弾を投下。先導機による照準点の誤認。後続機による投弾はほぼ正確。

爆弾の種類と目標投下

先導機

1340Zの間違い

目標区分	爆弾投下機数	投弾時間	投下高度	目標目視可能	目標目視不可
		時間	高さ	距離	距離
軍需拠点	80	1340Z	1500Z	16200	16840
第1目標	12	1340Z	1557Z	16000	16900
高橋浜田岸	2	1345Z	1540Z	8500	10000
持子	2	1340Z	1540Z	12000	13000
尾崎	2	1340Z	1540Z	-	-

M-69ナバーム焼夷弾13万1290個 投弾時間22時28分-24時08分、高度 - 4560-5070m

爆弾の種類

投弾した爆弾

爆弾の種類	投弾した爆弾	第1目標(焼夷)	焼夷弾(焼夷)(焼夷)	投弾	高さ
M-695001E6	7656	7732	3955	6910	149
T813004F6	95	198	68	375	4
AN-M64,500GP	91	152	51	152	-

M-41AI弾1760発

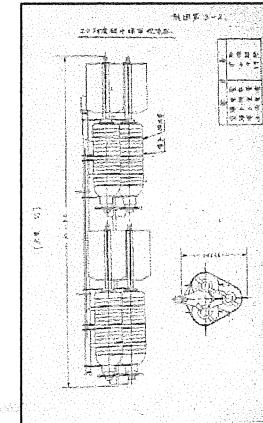
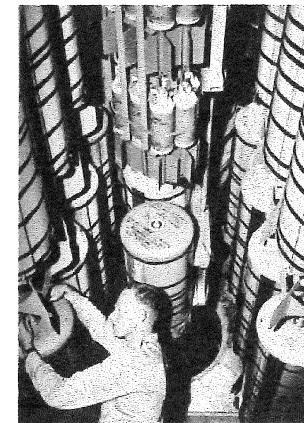
各機に1発、消火活動にあたる人員の救傷用、消防設備の破壊用。焼夷弾投下後に投下される。

3種類の混投はこの日のみ。

日本の軍部はB29がこの残酷な爆弾を投下したという事実を公表しなかった。なぜか?

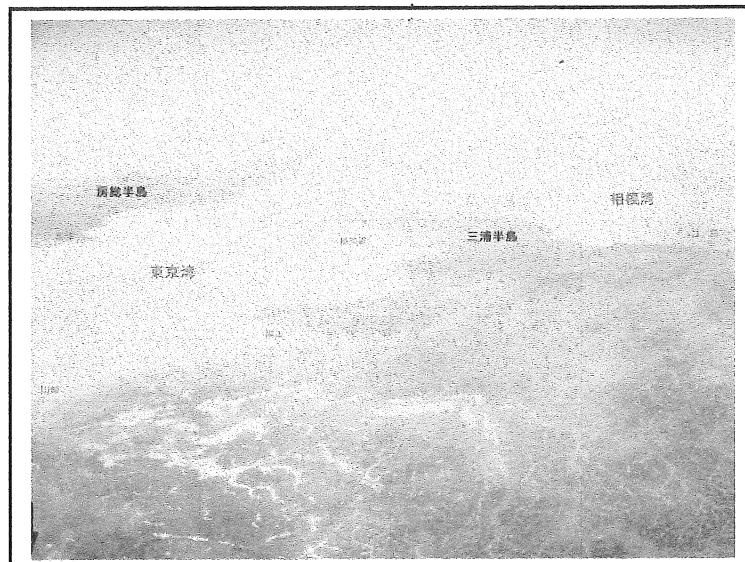
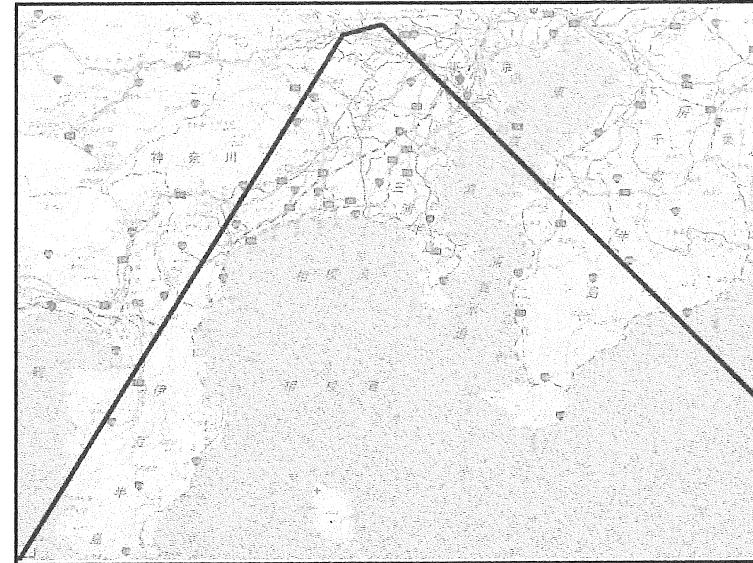
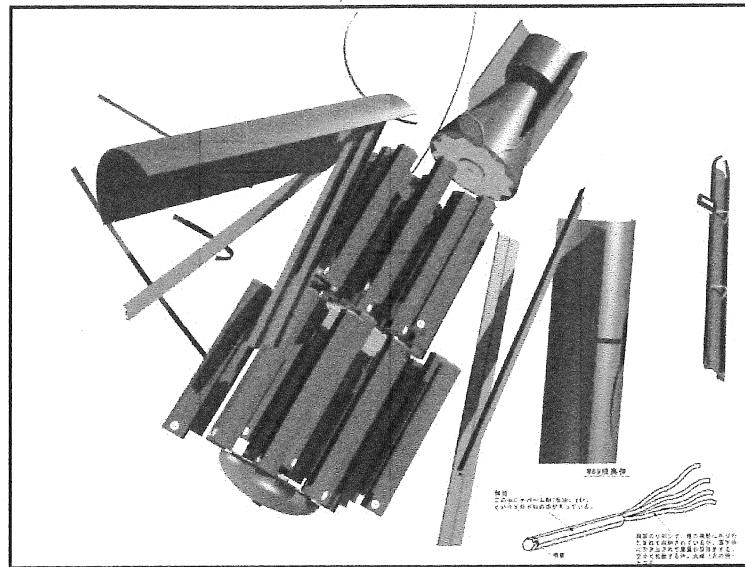
爆弾の性能を知って市民が恐怖心をおこし、消火活動をやめて逃げてしまうのを恐れたから。

T4E4破片集束弾



B29の機内。写真両側が集束焼夷弾、中央上部はT4E4破片集束弾。

日本海軍の航空技術廠支廠が昭和19年に「米国の爆弾」と題した報告書



陸軍飛行戦隊の邀撃

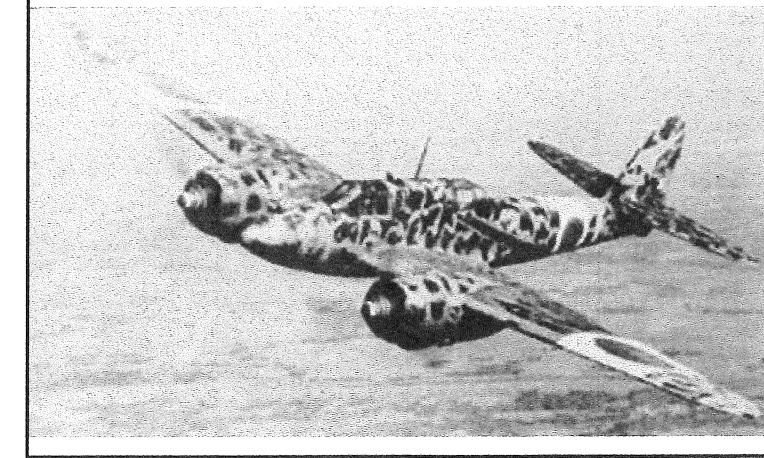
B29
30-35機の日本軍機を搭乗員
が目撃。
日本軍機による14回の攻撃のうち
5回は積極的。
交戦で100発の弾丸を消費。
1機が損害。

・5日午後8時までに、警戒戦備
甲の態勢。
・午後9時、警戒警報。
・同13分、各戦隊に非常戦備
下命。
・同19分、112戦隊(新田)の4
機大宮上空に出動。以後、35
分まで34機。
・同45分、空襲警報。邀撃機
は埼玉南部から東京東部上空。
・午後10時2分、112戦隊に前
橋上空への移動。
・空襲意図の察知、23分前。
28機が前橋・高崎。

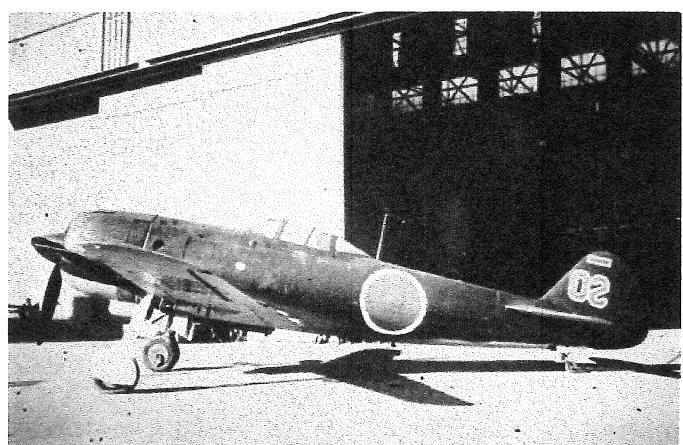
米軍が付けた日本陸・海軍機コードネーム

陸　　軍			海　　軍		
機種名	型式・呼称	コードネーム	機種名	型式・呼称	コードネーム
97式戦闘機	キ-27	NATE	96式艦上戦闘機	A5M1~4	CLAUDE
1式戦闘機	キ-43	OSCAR	零式艦上戦闘機	A6M1~8	HAMPIZEKE(ZERO)
2式戦闘機	キ-44	TOJO	烈風	A7M1~2	SAM
2式双発戦闘機	キ-45改	NICK	雷電	J2M1~6	JACK
3式戦闘機	キ-61	TONY	紫電	N1K1-J	GEORGE
4式戦闘機	キ-84	FRANK	紫電改	N1K2-J	GEORGE
5式戦闘機	キ-100	TONY			

NICK(米軍呼称)、屠龍(53戦隊)



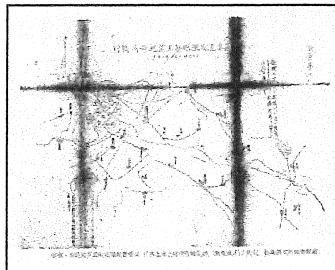
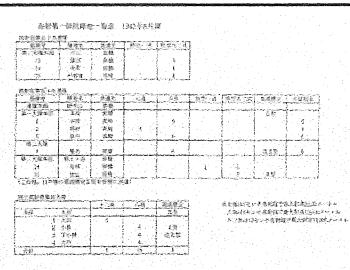
FRANK(米軍呼称)
四式戦(疾風)



桜
花



前橋・高崎地区高射砲隊の配置



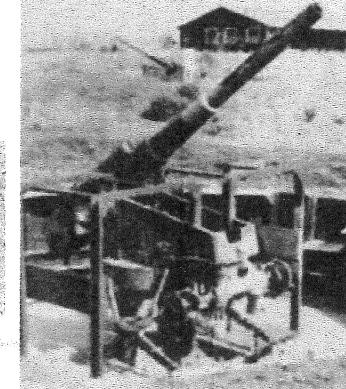
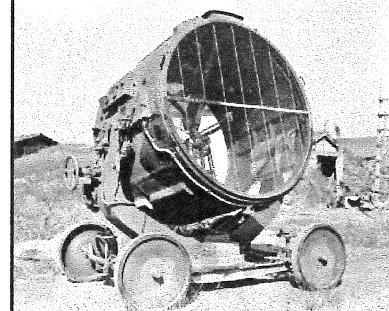
B29

太田と跳子で対空砲火に遭遇、乏しくて不正確。

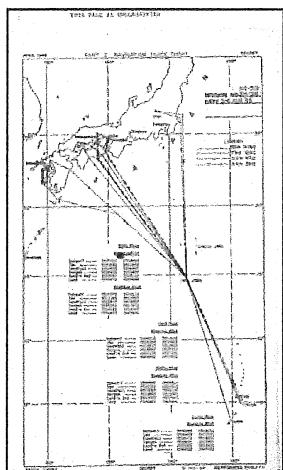
目標でも中口径砲と重砲の攻撃、乏しくて不正確。

- ・前橋と高崎の以東に主力を配置。高崎では新高尾・大類・競馬場、前橋では六供・元総社。
- ・照空隊は粕川・宮城・富士見・箕輪・相馬ヶ原・西横手・藤岡方面に陣地。

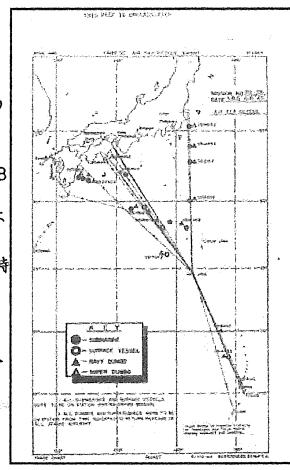
照空灯と高射砲



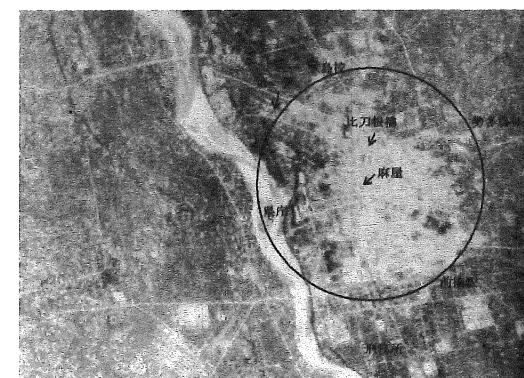
B29の帰還と空-海救助



- テニアン北飛行場
- ・1番機の着陸
- 8月6日午前5時9分(日本時間)
- ・最後尾機の着陸
- 8月6日午前8時8分(日本時間)
- ・硫黄島に15機が不時着。
- ・平均飛行時間14時間26分
- ・損失機0機、損傷機1機、作戦参加人員1182名中の死傷者は皆無。

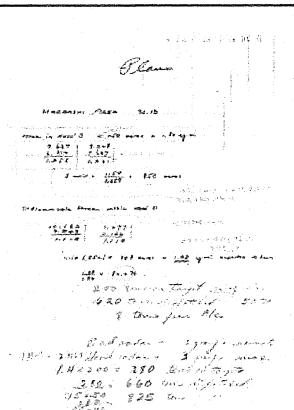


空襲後の前橋市街地



リト・モザイクの存在とB29による投弾方法から明らかなように、当時の米軍といえども夜間に周辺部から焼夷弾を投下して市民の退路を断ち、そして中心部へ焼夷弾や爆弾を落とすような精度の高い技術は、持ち合わせていなかった。

空襲成果の判定

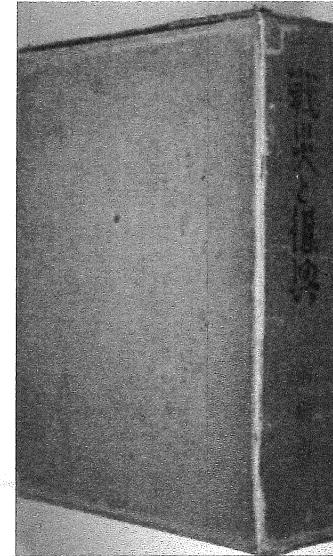


- 市街地の破壊について詳細に分析。
- 計画された目標域は1.3平方マイルとして、その破壊を77%。
- 『戦災と復興』—市街の約8割が焦土、死者535名（公式記録）。
- 犠牲者は587名である。（昭和20年7万9,155人）

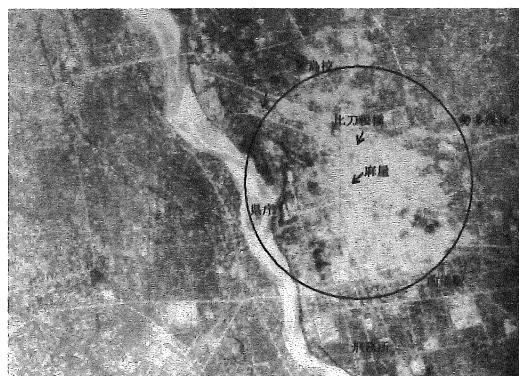
『戦災と復興』昭和39年3月刊行。
出版計画は昭和30年。

各種証言

- a.リーフレット散布
- b.ラジオ放送
- c.B-29の旋回と照明弾の投下
- d.投弾開始時間と爆撃中心点
- e.空襲目標の実際
- f.投下弾種
- g.飛行コース
- h.消火活動と避難



空襲後の前橋市街地



リト・モザイクの存在とB29による投弾方法から明らかのように、当時の米軍といえども夜間に周辺部から焼夷弾を投下して市民の退路を断ち、そして中心部へ焼夷弾や爆弾を落とすような精度の高い技術は、持ち合わせていなかつた。

空襲の実像

- 上空の意図と地上の惨劇
- 各種の体験記
- (軍・民間)との照合
- 米軍史料の分析は日本側史料の空白部分を埋め、さらには日本側の伝聞・憶測の誤りや軍発表の虚構を克服。
- 日本各地の空襲・戦災史のあらたなまとめ。